東京学芸大学キャンパス・アジアプログラム

2020年冬季韓国 ソウル教育大学校短期留学報告

Winter Program for Trilateral Cooperation

2020.1.5 – 1.18

参加者からこんな声が届いています～

〈プログラムの内容について〉

- ソウル教育大の先生方からの講義がとても印象的だった。韓国語の講座だけでなく、韓国の文化や教育について体験を交えて教えて頂けたのが、とても貴重な経験となった。韓国の伝統の楽器を演奏したり、スポーツ（テコンドー）を行ったり、このプログラムでないとできない体験だったと思う。
- 一週目は座学中心で言語や社会制度、教育制度、先生という仕事の社会的位置など、なかなか大学に行って学ばないと分からないものが多くあり、非常に勉強になった。
- 韓国には以前も留学した経験があったが、大学院生と共に学んだことや、中国の学生と一緒にたくさん話し合ったり、料理やスポーツを楽しんだり、テーマパークで遊んだりするのは、このプログラムでないとできないことであったので、参加できたことを光栄に思うとともに、充実したプログラムであったと思う。
- 2週間の間に沢山のフィールドワークに行くことができたのも魅力的であった。
- 講義はどれも興味深かったが、その中でも特に、「教育」に関する内容が印象的だ。韓国だけではなく、日本や中国の現状と比較するなど、3ヵ国の社会制度や教育について、参加学生の声を踏まえながら、深く考えることができた。

〈海外での経験について〉

- 今回の経験を含む海外での経験は自分の“受け入れる力”を大きくしてくれたと感じる。日本での当たり前や韓国での当たり前を頭で理解し、その文化や習慣に馴染んでいくという“郷に入っては郷に従え”という能力は、今後の社会生活でも重要になってくると思う。
- 3ヵ国の文化の違いを発見することは、とても新鮮であった。また同時に、日本での当たり前を見つめ直すことができ、自身の価値観や視野が広がった。
- 本プログラムを通し、素敵な出会いがたくさんあった。日本人参加者との仲が深まっただけではなく、中国・韓国の学生とも仲良くなることができた。最後にもらった素敵なメッセージカードと別れのハグをした思い出は、一生忘れない。
- 以前、スウェーデンに留学していたが、やはり日本と文化が似ているアジア圏に留学することは心身ともに安心感が違うなと感じた。
- 二週間という長期の海外滞在は初めてだったので、行く前は少し不安もあった。しかし、プログラムに参加している仲間や、スタッフの方が分からないことがあった時は助けてくれるのでとても安心だった。

東京学芸大学キャンパス・アジア推進室

〈プログラムで身に付けたことや学習成果について〉

- 教育を韓国・日本・中国の視点から見ることができ、よかったと思う。他国の視点から教育を学ぶことによって、新しい切り口で教育の問題や解決策が見出されると思うので、非常に良い機会だった。
- 今回のプログラムでもっとも自身が成長できたと感じた部分は、自分の意見と根拠を正しく伝える重要性を学び、話し方について考え話せるようになったことである。
- 以前は英語が話せないからと、外国人とのコミュニケーションを避けていたが、今回のプログラムを通し、自分の知っている単語や身振り等を使った拙い英語であっても、“伝えよう”という気持ちがあれば、意外と相手に伝わるということを知り、まずはトライしてみることが大切であると学んだ。
- プログラムの前から勉強していた韓国語をより実践的に使うことができ、韓国の大学生との交流や、観光で行った店での会話など現地でしかできない経験の中で、よりネイティブに近い韓国語を身につけることができた。
- このプログラムを通してより一層韓国へ自分が近くなったように感じる。何よりも、韓国の文化や人が好きになったことがこのプログラムに参加した大きな成果だと感じる。
- 日・中・韓3ヵ国の教育制度や教員について理解することができた。社会的背景による共通の課題を持っているということや、同じ教員であっても、韓国では社会地位が高いのに対し、日・中ではそうではないことなど様々なことを学んだ。それらを踏まえ、3ヵ国は教育制度等、互いに参考にできることがあるのではないかと感じた。
- 講義は基本的には英語で行われたため、自然と英語を聞く力や理解する練習になった。プログラム中は英語、町に出たらハングル語が飛び交うというとても面白い言語環境にあった二週間だった。
- 一番の学習成果となったのは、最終日のプレゼンテーションだった。グループになり、中国の学生とディスカッションをして、発表のテーマを決め、プレゼンを作り、発表したことで英語を使おうという積極性が身に付いたと思う。特に、発表ではみんなの前で英語を話すことに緊張したが、なかなかできない貴重な経験となった。

CAMPUS Asia

Tokyo Gakugei University

キャンパス・アジア

〈今後の進路への影響について〉

- 今回のプログラムを通し、ソウル教育大学で学びを深めたいと思いも生まれ、ダブルディグリープログラムの参加も考えている。
- このプログラムに参加することで、もっと韓国の教育を学びたいと感じ、ソウル教育大学へ留学したいと思った。
- 北京師範大学からの学生の様子に刺激を受けることができ、今後の自信の学びへの姿勢に大きく影響するものだったと感じている。
- グローバル化が進んでいる現代で、教員としてもっと広い視野を持ち、教育に関わっていきたいと思った。
- もっと英語力を高めたいと思った。中国の学生はとてもレベルが高く、英語力では大きく差があると感じた。次は英語圏の留学に行って英語で世界の人とコミュニケーションを取れるように勉強したい。
- これまで自分なりに英語を学んできたつもりだったけれど、中国の学生のレベルを見てもっと語学を上達させると決心した。自分の置かれている環境に満足しないで、世界を見てもっと勉強しようと決心できたので、このプログラム参加できたことに感謝しかない。

〈その他〉

- プログラム参加前に、日本で簡単な韓国語の講座を開いていただいた。この事前学習が、2週間の学びを有意義なものにしたと思う。
- 2週間でこんなに色んな経験ができるとは思っていなかった。旅行で韓国を訪れるのでは味わえない体験がたくさん出来た。
- コーディネーターをして下さった韓国の先生や、このプログラムのスタッフとして様々なに助けてくれたソウル教育大学の学生に感謝する。